

社会調査の基礎

科目コード	CE4073	担当教員	三浦 剛(上)／村山 くみ(下)
単位数	2単位	履修方法	R or SR



※この科目は、平成21年度以降入学者に対して開設されている科目です。平成20年度以前に入学した方は、同じ内容を「社会福祉援助技術論Ⅱ」として学習します。

■科目の内容

社会福祉実践における社会調査の役割は、近年ますます重要になっていきます。間接援助技術として強調されていた時代には、主にメゾ、マクロ領域を中心に用いられていました。しかし、近年ではリサーチに基づくソーシャルワークあるいはエビデンスに基づくソーシャルワークといった概念にみられるように、ミクロ領域を含む全ての社会福祉実践の領域に社会調査の知識と技術が必要とされています。

本科目では、主に以下の内容について学びます。

- ① 社会福祉における社会調査の役割
- ② 社会調査の概要
- ③ 社会調査の方法（量的および質的分析）
- ④ 社会調査における倫理と個人情報保護

■到達目標

- 1) 社会福祉調査の意義を近代史に位置付けて述べることができ、今日におけるその目的を説明できる。
- 2) 各種統計を統計法も参照しながら活用することができる。
- 3) 統計的方法の基礎を理解し、調査の枠組みが組めるようになる。
- 4) 調査票を作成したり結果の分析の方法に関する留意点が説明できる。
- 5) 少数事例実験計画や質的調査法について、社会福祉実践の評価と関連付けて説明できる。

■教科書

社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎（第3版）』中央法規出版、2013年（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2013年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会調査と社会福祉 (第1章、第7章)	ソーシャルワークの発達史を軸に、貧困調査に代表される社会調査とソーシャルワークの関連性を理解する。社会科学としてのソーシャルワークを理解する。	産業革命以降、ヨーロッパを中心とした人道主義的諸活動の発展とソーシャルワークの萌芽について確認しておきましょう。
2	社会福祉援助技術における社会調査 (第2章)	社会福祉援助技術における社会調査の意義、目的、種類と方法を理解する。	ソーシャルワークは「ミクロからマクロへの連続体である」ことの意味を事前に調べておきましょう。
3	社会福祉援助技術における社会調査 (テキストに該当箇所なし)	特に、社会福祉実践（ソーシャルワーク）の評価における社会調査の意義、目的、方法を理解する。	ソーシャルワークのプロセス（過程）における「評価」の意味を確認しましょう。
4	社会調査の概要 (第2章)	社会調査の分類、意義と目的、対象と方法について理解する。また、統計法の概要を理解する。社会調査のプロセスを理解する。	身のまわりにどのような「調査」「統計」があるか調べてみましょう。
5	量的調査の方法 (第3章)	量的調査法の必要性を理解し、標本の抽出の方法から調査票作成までのプロセス、データ分析の手順を身につける。独立、従属変数の意味、変数の尺度水準を理解する。	量的調査のプロセスにおいて、大切なことは何か、説明できるようになります。
6	量的データの分析 (第3章)	単純集計と1変量の性質を表す「記述統計量」について理解する。	平均や標準偏差、正規分布といった用語について、あらかじめ確認しておきましょう。
7	量的データの分析 (第3章)	2変量の関係を表す記述統計について、まず、相関関係を分析する方法を理解する。「統計的有意」の意味を理解する。	相関係数の意味（分析結果の読み方）がわかるようになります。
8	量的データの分析 (第3章)	次いで、「検定」の意味と方法を理解する。 「仮説」と「検定」の意味を理解する。	カイ自乗検定、t検定などの結果の解釈ができるようになります。
9	量的データの分析 (第3章、第6章)	多変量解析の意味と、統計分析パッケージ・ソフトの利用の仕方について知る。	代表的なパッケージ・ソフトを利用した多変量解析結果の、基礎的な部分の解釈ができるようになります。
10	質的調査の方法 (第4章)	質的調査の必要性と特徴を理解する。質的調査法の種類を理解する。	主観的データが重視されるようになった背景を考えてみましょう。
11	質的調査の方法 (第4章)	質的調査のプロセスについて、設計から対象者、手法の選定までを理解する。	質的調査において、なぜ厳密にプロセス、方法を守らなければならないのか説明できるようになります。
12	質的調査の方法 (第4章)	調査の実施について、実際の調査手法に基づいて理解する。	KJ法やグループ・インタビューなどを例にとり質的調査の実施方法を、具体的に説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	質的データの分析 (第4章)	1、2の質的調査手法を例に、逐語記録の作成から報告書の作成に到る一連の分析プロセスを理解する。	グラウンド・セオリーによる質的データの分析プロセスの概略を理解しましょう。
14	社会調査における倫理と個人情報保護 (第5章)	社会調査における倫理的配慮や個人情報保護の具体的手続きを知る。	調査依頼文書の作成を通して、倫理的配慮や個人情報保護の方法を具体的に理解しましょう。
15	まとめ 社会調査の実際	まとめとして、福祉的事象の理解から、仮説を立て、調査を企画、実施、データを分析する一連の作業を、実例に基づいて学び、社会調査に関する具体的なイメージを作る。	卒業論文を書く、などと仮定し、一連の手順を具体的にイメージしてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	社会福祉における社会調査の今日的役割について、歴史的経緯も踏まえて説明しなさい。
2 単位め	量的調査における調査票の作成方法と留意点について説明しなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web解答可

■アドバイス

**1 単位め
アドバイス** 社会調査の歴史的な流れを概観したうえで、社会調査が今日の社会福祉にどのように生かされているのかについて述べてください。従来は社会福祉援助技術の中で間接援助技術として位置づけられ、主にメゾ・マクロ領域の実践を中心に用いられていましたが、近年ではミクロ領域においても社会調査で得られた知見を活用し、さらに、その技法を活用することも求められてきています。このような点にも着目し、具体例をあてはめながら学習するとより理解が深まります。

社会福祉と社会調査の歴史的関係について、さらに深く学習したい方は、リッチモンドの「社会診断」、ブースの「ロンドン調査」、エンゲルスの「イギリスにおける労働者階級の状態」などについて調べてみると良いでしょう。

**2 単位め
アドバイス** この課題では、量的調査を題材とし、社会調査の方法を単に知識として覚えるだけではなく、あなたが社会福祉の実践で活用することを想定して、調査票作成の手順と留意点を確認していきましょう。レポート作成では、単に手順と留意点を羅列するのではなく、具体例を挙げながら説明するとより理解が深まります。

参考として、調査報告書や調査論文には、調査の目的、意義、方法や手順が述べられています。報告書には、付録として実際に用いられた調査票が載せられていることがあります。これらの資料は社会調査の方法について具体的なイメージを持つのに役立ちます。

■科目修了試験 評価基準

- ・『レポート課題集』本科目全体の内容についての理解を問います。

- ・問題の題意に適しているかどうかも問います。
- ・解答字数は、800字以上を基準といたします。

■参考図書

●初心者向け

平山尚・武田丈・吳裁喜・藤井美和・李政元『ソーシャルワーカーのための社会調査法』ミネルヴァ書房、2007年

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013年
斎藤嘉孝『社会福祉調査』新曜社、2014年

●ちょっと専門的に学びたい人にお勧めの文献

宝月誠・中道實・田中滋・中野正大『社会調査』有斐閣Sシリーズ、1998年

井上文夫・井上和子・小野能文・西垣悦代『よりよい社会調査をめざして』創元社、2001年

●調査した結果をコンピュータで分析してみたい人にお勧めの文献

※統計解析ソフト（SPSS）を購入済みであることが前提

加藤千恵子・廬志和・石村貞夫『SPSSでやさしく学ぶ アンケート処理』東京図書、2005年

■履修上の注意

平成27年度以降入学者は、この科目を高等学校教諭一種免許状（福祉）取得に必要な「教科に関する科目」として使用することはできません。